

千葉県廃棄物処理施設設置等専門委員会現地視察について

- 1 日時 平成18年12月22日（14時～17時）
- 2 場所 大平興産株式会社最終処分場（富津市高溝字左り沢）
- 3 目的 変更許可申請箇所、漏洩調査箇所及び調査状況の視察
- 4 参加者
専門委員会委員 6名
環境対策監
産業廃棄物課職員 7名
資源循環推進課職員 2名
環境研究センター職員 1名
- 5 内容
 - 1) 環境対策監挨拶
 - 2) 第三処分場分離部分の変更計画の事業者説明
 - 3) 質疑
 - 4) 現地視察
 - ① 第三処分場分離部分の現地状況の視察
 - ② 漏洩原因究明調査の実施状況の視察
 - 5) 質疑
- 6 質疑内容（質問者：専門委員、回答者：大平興産）
 - 1) 第三処分場分離部に係る質疑応答の概要
 - ① 地下水排水の集水管200φの算定根拠を示してほしい。

答 流域面積と勾配等を考慮し、設計指針に準拠して算出しました。
 - ② 第三処分場分離部は遮水シートを張るため処分場がプールのような状態になる。集排水後の処理に十分注意を図らねたい。

答 了解しました。

- ③ 悪臭の調査結果でNo. 5のトリメチルアミンが0.007ppmと参考値の0.005ppmを超えている。実際の匂いの発生状況はどうだったか。

答 参考値は敷地境界の規制値です。No. 5地点の悪臭はガス抜き管からのガスを直にサンプリングしており、敷地境界までに十分拡散してにはおいはなくなると考えられます。匂いの状況については、物質濃度と臭気強度の関係から「何のにおいかわかる」という程度であったと記憶しています。

- ④ 大気汚染の調査項目で粉じんが不選定になっている。稼働機器5台を小さいと考えているか、十分拡散されて影響が小さいといえるか、検証する必要はないか。

答 生活環境影響調査においては、選定不選定について理由を明記すれば調査項目から除外できることになっています。

作業機械が少ないのと作業範囲から近傍民家まで500m以上離れていることから影響はないと考えました。

また、過去に近隣住民の苦情もなく、第三処分場はこれまでの第二処分場よりも住民側から遠ざかります。さらに処分場への持ち込みの管理や即日覆土などの維持管理を徹底します。

- ⑤ 仕切り堤の安定計算においてC材とφ材の両方を変化させているが、二重に安全率を掛けていることにならないか、仕切堤の安定計算において、埋立廃棄物層の物性値が過大評価になっていないか

答 堰堤は敷地内の掘削土を用いるため、地域的な基盤層、過去の堰堤状況を勘案したうえで、基準に則った計算を行っています。

埋立廃棄物層の物性値は、実際の廃棄物に対する原位置試験・室内試験の結果から決定しています。

以降、時間の都合から次回委員会に持ち越し

2) 現地視察後の質疑応答の概要

- ① 地層の状況が複雑であるため、立体把握できる図面がほしい。
遮水シートの検知システムについて説明がほしい。

答 図を現在作成中です。

漏水の検知についてはセンサーを用いるのではなく、地下水の集水管を分割した区画に配置し、それぞれ独立状態で水質調査を行うことで、どの区画から漏洩したか判断します。これは設計指針に基づいています。

② 最寄りとなる関豊公民館の位置はどこにあたるか。

答 現場事務所の南西の県道沿いにあり、処分場から1km以上離れています。

③ 地下水のモニタリングの頻度について

答 水質調査は月1回行っており、特に伝導率と塩化物イオンは週1回の頻度で調査しています。

なお、今まで重金属類等の有害物質は不検出となっています。

排出事業者のプロセスを確認するなど受け入れ管理を徹底しています。ただし、不明確になりやすいシュレッダーダストについては鉛の含有が問題であるため十分注意しています。

④ 処分場に受け入れした履歴はわかるか。

答 セル方式で埋立てているので、セルの区画ごとの履歴はわかります。

⑤ セメントミルクがあったように思うが何に使用したか。

答 井戸掘り用のベントナイトかと思われます。

以上